

令和6年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和7年3月18日(火) 15:00～16:40

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員8名：笹倉剛、市浦央子、小西孝子、高瀬由美、衣笠朋子、吉村靖、

柳良典、鷺尾小百合

教育委員会：菅野教育長、伊藤教育部長、図書館：桜井館長、民輪館長補佐

1 開会 (15:00)

2 あいさつ

(1) 会長

・日本は、学校でタブレットを使った学習を行い、図書館においても情報化が進んでいる。反対にフィンランドは、集中力や学力の低下からタブレットを使用禁止にして、紙媒体に移行している。オーストラリアは、16歳未満がSNSを使用することを禁止にするなど、世界では時代に逆行する動きもある。

・SNSやフェイクニュースなど、本当は何が正しいのか、信じられない時代になっている。真実を見抜く力をつけるためにも図書館の役割は重要である。

・「図書館で町が変わり、人が変わる」から、町づくり、人づくりに貢献すること取り組んで欲しい。

(2) 教育長

・子どもたちが本を読むようにしていくにはどうしたらよいのか、大きな課題である。

・図書館と学校の交流、連携を積極的に行い、子どもたちが正しい情報、良い情報に接する機会を増やしていきたい。

3 報告事項

(1) 令和6年度図書館利用状況と蔵書点検結果について (館長補佐)

(2) 図書館アンケートについて (館長)

(3) 令和6年度第1回図書館協議会での要望等について (館長)

4 協議事項

(1) 休館日設定の検討について (教育部長)

委員：協議事項の休館日の設定に対して、現場で働く職員の考えを知りたい。

事務局：教育委員会内で常に協議をしながら、検討をしているところである。その上で図書館協議会委員、教育委員の皆様の意見を聞いて進めていきたい。課内でも協議しており、休館日を決める方向で考えている。

委員：職員、会計年度任用職員の人数について教えてほしい。

事務局：職員4人、会計年度任用職員16人である。

委員：小学校やこども園等にボランティアで読み聞かせに行っているが、子どもたちが文字を読まなくなったと聞く。ではどうして読まなくなったかを考えなければならない。子どもはお話を聞くことが本当に好きである。読み聞かせは大事なことだ。子どもは自分で読めなくても、お話を聞くとその楽しみ、喜びを感じることができる。ブックトーク講座を受けた中学生の感想で「本を開けたらこんな世界があったのだという気づきになった」と事務局から報告があった。そういう時間を大人が与える、作るということが本当に大事である。

それと今回の休館日を設定すること、その結果、人件費も削減することになることはどうかと思う。ボランティアの活動も大事だが、図書館の学校連携事業もとても大事なことだと思う。

委員：私は以前に教師をしていて、図書室の担当もしていた。図書室の位置もよるが、子どもたちだけではなかなか本を読めないで、大人も一緒に本を読んだり、考えたりする必要がある。図書館の職員が学校にサポートに入って活動することは大事だ。

委員：休館日の設定についてだが、職員の負担を考えると休館日を設定したほうが良いと思う。企業では週休3日制というところもある。やはり休館日を設定して、心身をリフレッシュすることは必要である。そうすると利用者が少なくなるという問題がでてくるが、働く職員のことを考えると休館日があった方がよい。

委員：以前、月曜日がこの図書館の休館日だったが、木曜日に変更したことがあった。その理由は月曜日は学校の代休になることが多く、子どもたちが休みになるからだ。その後、全日開館することになり、いつでも開いていて便利になった。それは市民の要望もあったと思う。図書館という場は、ただ本の貸し借りだけするところではない。特にこの図書館はくつろげる場所が多く、2フロアになっていて、階段を上ると吹き抜けが広がる空間を楽しみに来られている方もいる。受付も3か所あり、そこに職員を配置する必要もあるため、職員数が多い。他市の方からも良い評判を聞く。今はいつ来ても開いているから便利で安心というイメージができている。働いている人の仕事を軽減したいのなら、職員の人数を増やせばいいと思う。

委員：休館日についてだが、私は以前に図書館に勤めていた頃、職員の勤務の割振をするのが大変だった。図書館で一番大事なのは、レファレンスができる職員が何人いるかということだ。職員の健康を考えれば、週1回ぐらいは休んで、健康を維持することも大事だ。

利用者に、週1回休みにすることを理解してもらうのは本当に難しいと思うが、図書館として、この方向で進めたいという考えを示し、職員の健康を守ること、図書館の作業について説明することが大事である。

他の図書館で市が業務委託をしているところもある。業務委託の問題点は、職員が3、4年ごとに変わることだ。そのためレファレンスができる人材が育たず、専門性がなくなるという悩みがある。できるだけ市の職員を配置して、直営で運営するのがベストであると思う。職員の健康を守り、優秀な司書を育てる環境を作りたい。私は休館日の設定には賛成である。今日の一番の大きな課題である。

委員：図書館に司書を置く人数は決まっているのか。

委員：市独自で決めるはずだ。加西市は司書資格を全員持っていると思うが、実際にはどうか。

事務局：全員は持っていない。資格者は7人である。

委員：正規職員で司書資格を持っているのは何人なのか。

事務局：正規職員では1人である。

委員：司書は正規職員として採用して欲しい、

委員：この市の規模では司書の数は少ないと思う。

委員：レファレンスは大事なことであり、それが出来ているということを意識して欲しい。図書館でこのサービスがあることを市民に知らせることも大事である。「図書館で町が変わり、人が変わる」ためにはどうするのか。今の加西の図書館の良いイメージをそのままに続けてほしい。

委員：図書館では学校やこども園にも団体貸出をしている。ある学校では1階の廊下の机に、先生のおすすめ本が理由の書いた立て札とともに置いてあった。その取組をするようになってから、子どもたちが本をよく借りるようになったとのことだ。反対側の壁には、読んだ感想がメモにして貼ってあり、それを見ると心が躍るものだ。学校の取組が子どもに本の魅力を伝えてくれていると思う。

事務局：学校との連携は特に力を入れている。今は学校司書がない状況のため、図書担当の先生の負担になっている。出前講座をはじめ、図書館の職員が図書担当の先生に出来る限り、サポートやアドバイスをしている。

委員：学校では調べ学習をする。子どもたちがテーマを設けて、学校図書館と公共図書館にある本で調べて、それを司書に相談して学習をする「調べる学習コンクール」というものがあり、全国大会もある。応募作品をみると今の時代にあったSDGS、自分の町を良くするにはどうすればよいか、観光事業の促進など、良いテーマを設けて調べ学習をしているものが多い。図書館と学校とでこのような良い活動をしていることを保護者にも理解してもらいたい。

委員：以前、教師として小学校、中学校両方とも勤めた。図書館との連携で、小学校では絵本の読み聞かせによく来てもらい、楽しみにしていた。中学校では、ビブリオトーク講座を開催してもらい、現在も4中学校とも継続している。内容は講師の先生が最初にお話をしてくださり、そのあと子どもたちの代表6人くらいがそれぞれのおすすめの本を読むというものだ。その時に講師の先生が、「自分は小学校の時に父を亡くし、人生の中で一番辛い思いをしたが、何が私の支えになったかという、もちろん家族もそうだが、本であった」と話された。宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」を知り、その本を読むことによって、つらい思いが癒され、支えになったという話を聞いて感銘を受けた。「銀河鉄道の夜」は中学校一年生が学習する教材だ。

今、大人が子どもに語ることは少なく、本音も言いにくい。その講座を受けた一年生は「本は、こんなすごい力と勇気を与えてくれる」と本の持つ力に気付いた。この気づきは調べ学習にとっても大事である。そして、本を身近に感じることも大事だが、その本を通して大人はそれを人生の糧、肥やしにしたことを伝える機会をつくることも本当に大事である。

委員：中学生が昼休みに100人くらい図書室に来るという市内中学校の校長先生に伺うと、進学してくる各小学校ともよく読み聞かせをしていたことが読書活動につながっているという。テレビで取り上げられた島根県や石川県の中学校では昼休みに300人くらい図書室に来る。そこは学校司書が配置されている。そういう環境を作るべきだ。

委員：学校へ行きにくい子どもたちは、まず図書室に行く。図書室は子どもの避難場所にもなる。本を読む子、好きな子は、いろいろな意味でプラスに働き、1人でも図書室であれば過

ごせる。そのためにも図書室に司書が1人いてくれたらありがたい。

委員：学校司書の配置の要望に対して「早期の配置に向け協議、検討したいと考えている」と回答があり希望がわいた。福岡に住む私の友達が、学校司書の仕事につき、毎日図書室にいる。ボランティアの方もいる。そういう市もあるから、早く加西がそうなればいいと思った。そうなれば、学校の先生方の負担も減るし、子どもたちも安心して、図書室に行くようになる。

委員：学校司書がない学校で勤務している先生からすればそれは普通である。例えば、大阪のある市は、学校司書がいる学校といない学校があって、学校司書がいる学校に勤めた先生は授業をしやすい。学校司書にいつでもどのような内容の授業をするとお願いすれば、関連する本を準備してくれる。いない学校に行くと初めて大変だということがわかるわけである。図書室にいつも学校司書がいてくれたら、子どもの好みを理解して、本の紹介もしてくれる。

委員：私も司書教諭の資格を持っている。やはり1人だけで図書室に来る子どものことはとても気になる。本を読みたくないが、逃げ場所として図書室に来る子ども学校司書や大人がいれば安心すると思う。学校司書が各学校に入ってくれたら本当にありがたい。

委員：来館者数は、曜日によって違うのか。

事務局：この5年間の平均来館者数を調べたところ、一番少ないのは水曜日であった。一番多かったのは日曜日、次に土曜日であった。県下は休館日が月曜日というところが多いので、休館するとしたら、図書館としては他市と合わせた方が仕事をしやすいと思う。

委員：アステアかさい内の病院や店舗が休みの木曜日だと思っていたが、関係ないことがわかった。

委員：コープが閉店するが、その後の来館者数に影響するのではないか。

委員：今の状況だと関係がないような気がする。逆に、図書館に来たついでにコープや他の店で買い物をするという方が多いのではと思う。

委員：こども園では図書館から50冊ずつ定期的に絵本を届けてもらっている。以前勤めていた園では、玄関のテーブルに保護者向けの育児書などを置いていて、保護者が子どもに絵本の読み聞かせをする姿も見られた。今は届けられた絵本を職員室に置き、そこから先生方が各部屋に持って行くという活用の仕方をしているため、工夫をする必要がある。

県下は月曜日休館のところは多いが、逆に他市の開いている図書館に行くかもしれないし、逆のパターンもあると思う。閉める曜日については検討が必要である。私は休館日については、職員の健康を考えて、1日ぐらいあってもいいと思う。

委員：私は他市から引っ越してきて、この図書館が毎日開いていることに驚いた。図書館が大好きになって映画や音楽のコンサートにも来ている。私は家から近いから来やすいが、遠距離の方は来にくいかもしれない。

図書館を利用して気づいたが、割とスタッフの方が入れ替わっている。長続きしないのは忙しいからか、何が原因なのか。

事務局：図書館の仕事はたくさんあり、仕事が覚えられないという理由でやめられる方が多い。

委員：去年、全国6,000人に調査をして、「1か月に本を1冊も読まない」と答えた人が6割いたという新聞記事に驚いた。それは仕事や勉強が忙しいからではなく、スマホ（スマートフォン）の利用によるということだ。電子辞書の利用もあるが、スマホでゲームやニュースを見ていることが多く、若い子は1日に5,6時間も使用している。スマホがないと落ち着か

ないスマホ病になっているのではないかと、すでに幼い時からかかっているのではないかと心配する。

私は以前小学校に勤めていた。授業も黒板に手書きで、工夫をして板書をしていた。やはり、子どもは活字を見る、先生も活字調で書くということが大事である。例えば、子どもは、先生が書く筆順をみて、自分の書き順を確認する。だから、電子黒板に写されても、漢字も覚えられないのではないかと思う。

その他の記事で「失笑する」という言葉があるが、今は何か馬鹿にするときの笑いという意味で使われているが、実は違う。この意味は、「おかしさにこらえきれずに吹き出してしまう」ということだ。間違っただけで覚えるようになるのはなぜか。辞書で調べると頭に入ってくるし、それを書き出す作業も大事なのに、今はしなくなったと思う。すぐにスマホやタブレットに頼ることがいいのか悪いのか、やはり本来の日本語の良さを学ばなければならない。

委員：今の子どもは、いつもLINEなどで誰かと繋がっていないと不安で、1人になったような孤独感があるため、携帯を離せないという心理を分析した本があった。

委員：学校連携事業で、毎年1回、学校の図書担当の先生方が全員集まる会議があるが、学校によって活動が全く違う。図書館からブックトークやお話会などの講座を受けている学校もあれば、ない学校もある。子どもたちがどの学校に行っても同じように本の恩恵を受け、同じ情報が入るようにしてほしい。そのためにも学校司書の配置をぜひお願いしたい。

委員：マイナンバーカードで本を借りることがある。自動貸出機が2台あるが、左の機械はなかなか反応しない。右の機械は時間がかかるが貸出ができるのは何故だろうか。

事務局：マイナンバーカードを使用すると通信に時間がかかるようだ。特に、左の機械は何故か遅い。担当業者の方にも見てもらっているが理由がわからない現状だ。引き続き、調査をしているところである。不便をおかけしてたいへんに申し訳ない。

4 連絡事項

図書館協議会委員の任期について（館長）

5 閉会 副会長あいさつ

（16：40終了）